



社会福祉

法 人

豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

2007年(平成19年)12月28日

第46号

発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより編集委員会

〒561-0881 豊中市中桜塚2-28-7 TEL (6848) 1000

URL: <http://www3.ocn.ne.jp/~tcpvc>E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

祝！ボランティアセンター開設20周年



みなさまのご支援
のおかげです。
ありがとうございます！



『ボランティアセンター開設 20 周年に寄せて』

～市民の頼りになる拠点としてみんなの心のよりどころに～

豊中市社会福祉協議会

昭和 62 年 12 月、約 30 名の登録ボランティアと事務所の机一つのボランティアセンターがスタートしました。当時、福祉施設がほとんどなかった豊中では、登録いただいたボランティアとともに派遣依頼のあるご家庭に出向き、在宅支援のボランティアからスタートする船出でした。

その後、ニーズの高い外出介助、ひとり暮らし高齢者の話し相手、介護者支援の3つのグループを組織し、さらに、家事支援や子育て支援、老人介護、運転ボランティア、青少年のグループを平成4年にスタートさせました。この年、市内のボランティアグループによる「ボランティア団体連絡会」が結成され、翌年、ボランティアセンターが桜塚会館の2階に開設しました。それから2年後、平成7年1月17日あの阪神・淡路大震災が豊中を直撃しました。ボランティアのつながりとボランティアセンターの部屋があったことが、市社協が震災支援ボランティアセンターとして約5200人の活動拠点として力を発揮することにつながりました。

震災は多くのものを奪いましたが、私達に人と人とのつながりの大切さを改めて感じさせました。その後、小学校区単位でのボランティア育成など小地域福祉ネットワークを推進すると共に、小・中学校での福祉教育の推進、災害ボランティアネットワークなどの活動へと広がります。さらにボランちゃんの誕生と共に子どもから大人まで幅広くボランティア活動を広げていくことを目指しました。

平成11年からは企業のボランティアネットワークの組織化やまちかどボランティアボートの普及など、企業や事業所の社会貢献についても広がっていきました。介護保険のスタートと共にボランティアの活動は大きく変化してきました。今では高齢者施設は80箇所へのぼり、従来の在宅支援から施設ボランティアへと大きくシフトしてきました。

そして、平成14年に岡町商店街にボランティア活動推進センター〈ぷらっと〉を開設し、ボランティア活動をより親しみやすいイメージで多くの市民の来場いただいています。

その時々時代の狭間の課題を支え続けてきたボランティアセンター。先人の多くの活動や熱い思いと真摯な気持ちに支えられながら20年間発展を続けてきました。これからも市民の頼りになる拠点としてみんなの心のよりどころになれるよう頑張っていきたいと思っています。今後ともよろしくお願い致します。



↑ 当時のボランティアスクール



↑ 北摂ふれあい広場



↑ 福祉の町づくり講座



↑ 青少年サマーボランティアスクール

ボランティアセンターの歴史

昭和 58 年 3 月	ボランティアスクール開講
12 月	豊中市社会福祉協議会が社会福祉法人格を取得
昭和 62 年 6 月	ボランティアセンターだより発行
昭和 63 年 4 月	ボランティアの登録・派遣事業の開始(ボランティアセンタースタート!)
平成 元年 4 月	登録ボランティアグループ結成(小さな手、聴くの会、みちしるべ)
12 月	北摂ふれあい広場(豊中市で開催)
平成 2 年 6 月	ボランティアルームの開設
平成 3 年 1 月	登録ボランティアグループ「聴くの会」により友愛電話訪問開始
4 月	リフト付自動車「ユウーあい号」の貸し出し開始
6 月	ボランティアグループの紹介冊子作成
平成 4 年 3 月	ビデオ「やさしい町を求めて 豊中のボランティア活動」を作成
4 月	福祉の町づくり講座フォローアップ事業(校区ボランティア部会推進事業)の開始
6 月	青少年サマーボランティアスクール開講
	登録ボランティアグループ(そよかぜ、ステッキ、つぼみ、豊中アッシー、ズームイン)発足
10 月	豊中市社協ボランティア団体連絡会結成
12 月	校区ボランティア部会交流会の実施

運転ボランティアグループ「豊中アッシー」 池川 公章さん

運転ボランティア「豊中アッシー」も発足 16 年。車イスを利用されているお年寄りや障害者の方など、これからも、ますます多くの方に安心してご利用いただけるよう安全運転に集中した活動をしていきたいと思います。

高齢者介護支援グループ「ステッキ」

斎藤 杏子さん

ステッキ発足当時(平成 4 年 6 月)は、豊中市内には高齢者施設はほとんど無く、家族介護が中心でした。夫が妻を、働きながら親を(昼間独居)等、介護する人の悲鳴に、『私達に手伝えることは何か』の思いで、月 10 件もの個別支援をグループ全員で取り組んできました。80 代から学生まで多くのメンバーの思いをつないできました。

介護保険導入後は、個別支援は減りましたが、制度の狭間で困っている方を支え続けていきます。依頼がある限り。

高齢者・障害者外出支援グループ「みちしるべ」 是常 重夫さん

ボランティア活動を始めて 16 年が過ぎました。初めは障害をお持ちの方々の自宅でのリハビリ支援や車椅子で病院へ送迎などの依頼がありました。この頃はボランティア活動も初期の頃のためか、利用者のご家族の方から「どこから給料をもらっているんですか」と聞かれました。「ボランティアは無償です」と答えたら、「まだ元気で若いのにもったいない」と言われましたが、今ではボランティア活動をする人も多く、皆さんの理解も深まりました。「みちしるべ」は現在、小・中学校を中心に車椅子の体験学習の講師もしています。恵まれた仲間と一緒に、これからも活動を続けたいです。

福祉ビデオ製作ボランティアグループ「ズームイン」 小谷 朝哉さん

私達「ズームイン」は平成4年の結成以来、ボランティア活動ビデオを制作してきました。少人数かつアマチュアの集まりなので試行錯誤の繰り返しでしたが、少しはボランティア活動の広がりの手助けになっていれば嬉しい事です。これからも皆さんと協力して新しい活動ビデオを制作していきたいと思っています。

平成 5 年 2 月	第 1 回「豊中ボランティアフェスティバル」の開催
6 月	ビデオ「広がる豊中のボランティア活動」製作 ボランティアルームが桜塚会館へ移転
平成 6 年 9 月	手作り介護用品展示コーナーの設置(原田、桜井谷老人デイサービス) ビデオ「まだまだ現役ボランティア」の製作
平成 7 年 1 月	阪神・淡路大震災発生 震災支援ボランティアセンター開設(～5 月)
11 月	市民のボランティア体験コーナーの実施
12 月	ボランティア川柳募集
平成 8 年 2 月	震災支援ボランティア活動パネル製作
6 月	災害支援ネットワーク会議結成
10 月	小地域福祉ネットワーク事業を開始
12 月	災害支援活動マニュアル作成委員会発足
平成 9 年 1 月	あの瞬間(とき)を忘れない 災害支援訓練、パネルディスカッション
2 月	日本海沖重油回収支援募金の実施
7 月	校区ボランティアコーディネーター研修会実施 ボランティア体験プログラムの開始
9 月	災害支援活動マニュアル発行 企業・団体の社会貢献活動検討委員会設置
11 月	ふれあいのまちづくり事業スタート



↑ 第 1 回ボランティアフェスティバル



↑ 震災支援ボランティア活動



↑ 「地球が動いた日」上映会



↑ 校区ボランティア研修会

「震災ボランティアに参加して」 岩田 ユミさん

阪神大震災が起きた時、豊中市でもかなり被害があることを知り、当時大学生だった私は震災支援ボランティアセンターで、ボランティアの調整をしたり、被災者の方のご自宅の片付け等のお手伝いをさせて頂いたりしました。震災支援ボランティアセンターは、市社協職員の方を始め、多くのボランティアの方々が知恵を出し合い、運営されていたことを思い出します。私には何ができたか分かりませんが、いろんな方と出会い、人と人とのつながりの大切さを実感しました。

いきいき歌体操グループ 「さわやか」 難波 敬さん

親の介護を終え、老家で 1 年間勉強した後、歌体操の「寝たきりにならない、させない、つからない」に共鳴して月 2 度の活動を始めました。最初から多くの方々に支えられ、指導する者が助けられながら今まで続けてきました。今では活動場所も広がり、これからも共に歌い体を動かし、励んでいきたいです。

友愛電話訪問グループ「聴くの会」

上野宏子さん

『聴くの会への思い』

私が「聴くの会」に入って早 9 年目の年を迎えようとしております。社協の職員、先輩の方々の下に御指導を仰ぎ、今日に至りました。“礼を失わず心優しく素直な心で”との言葉に励まされて対話に励んで参りましたが、修行が到らない為、時々わがままが出て困った事も度々でしたが、これからもボランティアに携っていらっしゃる皆様の下で日々楽しく一日一日を大切にしながら歩んでいきたいと思っています。

子育て支援と家事援助グループ「そよかぜ」

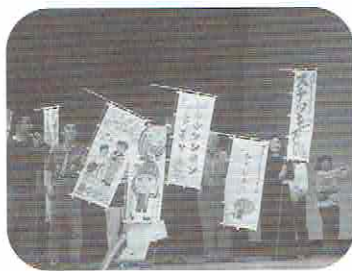
石原 紀子さん

『そよかぜの活動』

みんなで一緒にした子育て支援のボランティア、楽しかったなあ…

10 年も前になるでしょうか、「そよかぜ」の会員も 30 名近くいて子育て支援も複数の人で行く事ができました。上に 3 歳のお姉ちゃんがいる双子ちゃんの家事援助などもみんなでして喜ばれました。

最近では、会員数も減りましたので地道な活動をしています。



↑ のぼりコンテスト



↑ オープンセミナー



↑ 駅前ボランティア相談



↑ 福祉の日 PR 活動

手作り介護用品製作ボランティアグループ

「小さな手」 山口 三恵子さん

『ボランちゃん』

あなたは、おもちゃライブラリーの皆さんが頭の部分、私たち小さな手の仲間が体を1枚の可愛い絵をもとに手作りをしました。頭が先にできてきて、体を合わせてと、一口に言っても大変でした。出来るだけ絵に忠実にと、足元は長靴に布をはり、できあがったのが今も大活躍のボランちゃん。あなたです。

編みぐるみボランちゃん

手袋で作るボランちゃん

ボランちゃん手さげ袋

ボランちゃんカンバッチ

ボランちゃんバンダナ

と、グッズも色々…

そうそう忘れてはいけないボランちゃんソング♪を口ずさみながら終わります。

平成 10 年 2 月

第 6 回ボランティアフェスティバルにてのぼりコンテスト開催

ボランティアセンター10周年記念冊子発行

11 月

ボランちゃんイラストコンクールの実施

平成 11 年 1 月

校区と合同で災害支援訓練の実施

2 月

ボランちゃん誕生

5 月

ボランティア活動推進センター「ぷらっと」のホームページ開設

オープンセミナーの開催(現在の「ボランティアはじめま専科」につながる)

7 月

社会人のためのサタデイボランティアスクール開講

11 月

第 1 回ヒューマンカーニバルの開催

12 月

企業・団体ボランティアネットワークとよなか(通称 V ネットとよなか)結成

平成 12 年 2 月

ボランティアのためのホームヘルパー3級養成講座開講

企業、市役所職員研修スタート

ボランちゃんグッズ誕生

平成 13 年 11 月

ボランティアトレーニングコースの開催(とよなか国際交流センター・とよなか男女共同参画推進センターすてっぷ・市民活動課と共同)

12 月

介護相談員派遣事業スタート

平成 14 年 4 月

駅前ボランティア相談を福祉の店「なかま」で実施

6 月

教職員のためのボランティア体験講座開講

7 月

福祉の日制定

ボランティア活動推進センター「ぷらっと」開設

11 月

教職員のためのボランティア体験学習実践マニュアル作成

ホームページ作成ボランティアグループ「アクセス」

八木 守さん

私のボランティアとの出会いは、定年退職後に何気なく開いた広報紙に掲載されていたボランティアの募集記事がきっかけでした。最初は運転ボランティアから始まり、その後新しくできたパソコンのグループにも参加するようになりました。「ぷらっと」のホームページを一から作るということで、阪大生の協力を得て基本となるものを作成してもらい、それからメンバー同士学びあいながら、手直し・更新などの作業をしています。

V ネットとよなか 顧問 松井 淳太郎さん

「企業・団体のボランティアネットワークとよなかの設立」

大震災を契機として、ボランティア・NPO への社会的関心も大変高まりました。そのような状況の中、社協が事務局となって、平成 9 年に企業・団体の社会貢献活動検討委員会を設置、3 年の検討を経て、平成 11 年 12 月 18 日に V ネットとよながが設立されました。「企業の社会価値の増大」、「連携型活動」の推進を通じて、地道であるが着実に活動を展開し、豊中のまちづくりに貢献したいと願っております。

平成 15 年 4 月	ボランティアはじめま専科開始
7 月	定年後のボランティア相談会開始 親子ボランティア講座スタート
平成 16 年 3 月	「地域福祉活動計画」策定 まちかどボランティアボード 280 箇所
10 月	こころのボランティア講座開始
11 月	ちょボラサロンのスタート
12 月	マスターズボランティア入門セミナー開講
平成 17 年 1 月	「阪神・淡路大震災 10 周年 あの日から 10 年」の開催
4 月	「ぷらっと」がいいきネット相談支援センターの本部に
7 月	ボランティア体験学習福祉教育研修会の開催 ボランティア受入れ施設連絡会の開催
11 月	ヒューマンバザーの開始 団塊ボランティアセミナーの開催
平成 19 年 9 月	団塊塾とよなかスタート(P. 10~11 に関連記事掲載)



↑ ヒューマンカーニバル



↑ 定年後ボランティア相談



↑ マスターズボランティア



↑ ヒューマンバザー

青少年ボランティアグループ「つぼみ」 牧井 香菜さん

『つぼみとしてのこれからの抱負』

これまでの活動である車イスバスケットや、施設でのイベントのお手伝いなどを継続しつつ、新たな取り組みとして、バルーンアートを作って喜んでもらえるように頑張っていきたいです。

また、定期的に活動できるメンバーがあまり多くないので、メンバーを増やして幅広く活動していきたいと思います。

ボランティア団体連絡会会長 細谷 正純さん

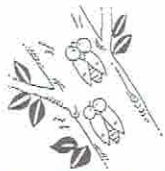
「ボランティア団体連絡会の今後」

ボランティア団体連絡会の目指す、情報交換・連携活動・会員相互の交流・啓発などに対して、どのような方法で達成するかが今後の大きな課題ではないだろうか。この連絡会議での討議と、ボランティアフェスティバルでの各グループ交流、さらに、ボランティアはじめま専科への積極的な参加が最も有効的な方法と考えられる。

市社協地域ボランティア活動推進委員会 委員長 吉田 芳子さん 「ボランティア活動は市民活動」

市民参加型の福祉の町づくりの主役はボランティアです。その拠点がボランティアセンターであるのは周知のところですが。20 年を振り返ると、幾多の種を蒔いた人達やその種を熱い思いで耕し育ててきた人達の顔が浮かびます。終戦後 1951 年に全社協が設立、1959 年にボランティア活動研究会が開催、1962 年に全国社会福祉大会でボランティア専門部会が設置され、善意銀行や小さな親切運動として啓蒙に努め、市町村ではその担い手づくりのボランティアスクールが各地で開催されました。大阪では全国に先駆けてボランティア協会が設立、ボランティアリーダーやコーディネーターの研修を実施しています。1975 年には中央ボランティアセンターが設置されたのを契機に市町村では市民活動の拠点として、競ってセンターやビューローを設置して住民の余暇と能力を人的社会資源として活用、豊中市は府社協の傘下にあつて積極的に市民参加型の福祉の町づくりと組織強化を図り、住民主体の民間団体として 1983 年に法人格取得をしています。「近隣友愛の精神」のもと、ボランティアセンターを開設、今日に至ります。その業績は広く高い評価を得て、多彩な活動に輪を広げ発展しています。

ボランティア活動は 21 世紀の最大の文化財産です。



夏のボランティア講座



— ボランティアスクール入門講座 —

これからボランティア活動を始めたいという方を対象に『福祉の町づくりとボランティア』をテーマとした講座を3回に分けて開催し、延べ45名の方にご参加いただきました。

◆1 回目→市社協地域ボランティア活動推進委員会委員長 吉田芳子さんに、今日ボランティアが求められる背景とボランティアとは何かについてお話をいただきました。

◆2 回目→車いす・アイマスク・インスタントシニア（高齢者擬似体験）の体験学習。

◆3 回目→市社協の登録ボランティアと校区のボランティア、福祉施設職員の方に、ボランティアの体験談、施設でのボランティア活動についてうかがいました。

◎参加者の感想

- ・豊中に長く住んでいながら、関わりがあまりありませんでした。これから、少しでも何かの形でボランティアをして豊中の事をもっと知り、貢献していきたいと思います。
- ・ボランティアを受け入れる側のお話が聞けてよかった。
- ・皆が暮らしやすい町にするために「各々が出来ることを少しずつする」ことが大切だと思います。その為に私が出来ることは何か探していきたいと思っています。



— 親子ボランティア講座 —

ボランティア活動に関心のある小学生とその保護者を対象に開催しています「親子ボランティア講座」も今年で7回目となりました。7月27日（金）17組32名の親子に参加いただき、市立福祉会館と岡町駅周辺で行いました。

全体で講演を聞いていただいた後、3種類の内容に分かれてボランティア体験をしました。

- ①車いす体験→親子交代で、車いすに乗る人と、押す人になって岡町商店街やその周辺をめぐりました。スーパーに入って商品が取れるか確認したり、公園の段差を利用して車いすの上げ下げの大変さを体感していただきました。
 - ②点字・アイマスク体験→点字板を使って、自分の名前など打っていただき、その後はアイマスクを付けて白杖を持つ人と手引きをする人にわかれ、歩いたり階段の上り降りをしたりしました。
 - ③手話体験→始めはあいさつや簡単な単語などを学んでいただき、後半は曲にあわせて手話で歌詞をつけました。
- 体験終了後は、全員でそれぞれが体験した感想や報告を発表し、情報交換をしました。



◎参加者の感想

- ・乗る人と押す人の信頼関係が大切だとわかりました。スーパーなど、普段何気なく使っている施設も不便だったり、大変だったりするのを感じました。
- ・点字を打つ事が楽しくて、もっとたくさんの文字を打ちたいと思いました。アイマスクは付けただけでとても不安になりましたが、手助けをしてもらうとだいぶ気持ちは変わりました。
- ・初めての手話体験、とても楽しく受講できました。親子で参加できたこと、とても貴重な経験をさせていただきました。

ー サマーボランティアスクール ー

7月14日(土)福祉会館にて、ボランティア活動に関心のある学生・社会人を対象に、企業・団体ボランティアネットワークとよなかの主催で開催しました。このボランティアスクールは、普段、平日の講座ではなかなか参加しにくい方にも気軽にボランティア体験していただけるよう、毎年夏休み前の土曜日に行っています。

今年は、14名の参加があり、ボランティアについての基礎的なお話と、かんたんなボランティア体験をしていただきました。体験は、車いす・アイマスク・インスタントシニア(高齢者疑似体験)の3種類を、ボランティアグループ「みちしるべ」と「ステッキ」のメンバーにご指導いただきました。



ー ボランティア体験プログラム ー

ボランティア体験プログラムとは、大阪府社協と府内の各市町村社協の共催で、府内の社会福祉施設やボランティアグループ、NPO 団体の協力により、ボランティアをより身近に体験してもらうためのプログラムです。

7月から8月まで行われ、参加者は1施設につき、1～3日程度の活動をします。対象者は、ボランティアに関心、興味のある小学生から社会人、高齢者まで幅広く、活動場所は府内全域で531プログラムでした。豊中市では69プログラムを様々な施設から提供していただき、35施設で219名(のべ358名)の参加がありました。

その中からお一人の方の実習感想文をご紹介します。



「原田老人デイサービスセンター」

古川 夢桃さん(高校生)

3日間は長いようで短い時間でした。でも、3日間で色々な事を知って、驚いたり嬉しくなったりしました。初日は期待と不安で緊張しながら仕事に取り組みました。2日目ではまだまだ素人で、利用者の方々の対応に必死で取り組んでいたのですが、パートナーの子が体調不良でぬけていました。僕は自分自身の事で精一杯になってしまい、友達の様子まで目が届かなく、情けなくなりました。もっと周囲に目が行く、余裕のある自分になりたいと思いました。3日目は、利用者の方々との会話も弾むようになり、とても楽しい時間を過ごせました。しかし、楽しい時間はあっという間に過ぎ、別れの時間になってしまいました。皆さんに「今日まで3日間ありがとうございました。」と言うと、職員の方々から「お疲れ様」の言葉をいただき、利用者の方々からは「いつでも来てね。本当にありがとう。」と温かい言葉をもらいました。本当に嬉しくなりました。でも、寂しくもなりました。

この3日間の中で、色々な方から「ありがとう」という言葉をもらい、幸せな気持ちになりました。この言葉を聞く為に、皆さんの笑顔を見る為に頑張ってきたんだと感じました。ボランティアは素晴らしいものだ改めて実感しました。

今回の体験で何かを手にした気がします。本当にありがとうございました。

※一部省略



ボランティア体験学習 福祉教育研修会開催！



平成19年7月23日(月)、福祉会館にて「ボランティア体験学習・福祉教育研修会」が行われました。この研修会は、教職員の方々に福祉教育について学んでいただき、今後のあり方について考えていくことを目的に、平成17年度より開催しています。今年度は、102名の先生方が参加されました。



午前中は、6種類のボランティア体験の中から各々が希望した体験に参加しました。皆さん汗だくになりながらも、充実した体験ができました。

午後からは、福祉教育に携わる様々な立場の方々にシンポジストとしてご参加いただき、現在の状況や福祉教育に対する思いなどを語っていただきました。

～アンケートより～

- ・ボランティアの意義を中心に、普段できることをいつも心がけることから、自然と助け合える指導をしていきたいと思った。
- ・実際に相手の立場になるということがいかに大切で難しいかということを学んだ。ただ単に手助けをするだけではなく、それが相手にとって本当に役立っているのかということを考えながら取り組みたい。

〈シンポジスト〉

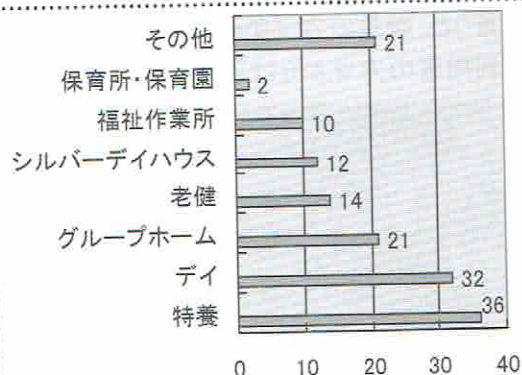
市社協登録ボランティアグループ「ステッキ」	斎藤杏子さん
教育センター	三上洋さん
上新田校区福祉委員会	山田昭治さん
第九中学校	森下夕里美さん

《施設ボランティアアンケート結果》

市社協では施設にボランティアに行っておられる方々を対象にアンケート調査を行いました。活動を通して感じておられることなど、率直な意見がうかがえました。集計結果の中から一部ご紹介します。

■集計期間：5月25日～6月22日

■回答数：51名



「これまでボランティア活動をされた施設は？」
(複数回答可)

「施設でのボランティア活動をして良かったことは？」

- ・人生修行、人生の気づきを得る。
- ・ボランティアに行くのを楽しみに待っていてくれる。
- ・「また来てほしい」と言ってもらえた。
- ・活動後に皆さんと握手をしてありがとうの言葉を聞いた時や次回行った時、顔を覚えて下さっていて声を掛けて下さる時本当に嬉しく思う。
- ・利用者の方や施設職員から感謝の言葉・笑顔をいただいた時、やりがいを感じる。
- ・自分の特技が役立ち、良かったと思う。
- ・施設の様子や雰囲気を知ることができた。

ボランティアは今

～歌声を届けます～
出張ライブ 「夢楽ライブ一座」



大阪府下の高齢者施設や障害者施設等で歌とギターによるライブを続けている「夢楽ライブ一座」。大東市にあるフォーク喫茶を拠点に活動をする4人の若者のバンドで、ボランティアで出張ライブを行なっています。

病院の院長からの「リハビリになる歌を作してほしい」という依頼がきっかけで活動を始め、現在は年間130回以上のライブに出かけています。また、豊中市内の施設でも多くのライブを行なっています。

今回は8月17日グループホーム「アイケア服部」で行なわれたライブを取材してきました。初めてのライブでしたので利用者の方も演奏開始当初はどこか不安な感じでしたが、曲が進むにつれて自然と手拍子が大きくなり、身体もリズムにのってきました。最後はみんな大きな声で歌を歌い、大いに盛り上がっていました。

「大阪府内すべての市町村の福祉施設でライブを行いました。これから僕達の歌を聴きたいという人がいる限り活動を続けます」とリーダーの山野さん。これからもたくさんの人達に明るい歌声を運んでください。



ボランティアグループあれこれ

運転ボランティア 「豊中アッシー」編

「豊中アッシー」は、リフト付自動車「ユウーあい号」で、車いすを使用されている、お年寄りや障害のある方の外出をサポートし、送迎活動をしているグループです。



♪活動に興味のある方は…

定例会： 毎月第3木曜日 10:00～12:00

場所： ボランティア活動推進センター「ぷらっと」

お問合せ： ☎06-6848-1000

9月20日(木)「ぷらっと」にて、「ボランティアはじめま専科」を行いました。2名の方にご参加いただき、講座の内容は定例会の見学とリフト付自動車の試乗でした。

定例会の後、以前「豊中アッシー」がケーブルテレビの取材を受けた時のビデオを見て、活動の様子や雰囲気を感じ取っていただきました。また、先輩のメンバーの方々から、運転ボランティアに対する熱い想いや、苦労したことなど、ありのままのお話をたくさんお聞きする事ができ、く細く、長くボランティアを続けていく為の秘訣が得られたのではないのでしょうか。最後に、リフト付自動車のリフト操作などを実際に体験していただき、より活動のイメージを膨らませていただいたところで終了となりました。



団塊塾とよなか密着レポート

団塊の世代が退職期を迎える 2007 年。市社協では、団塊の世代の地域デビューを応援するために団塊塾とよなかを開催しました。9 月 11 日から 10 月 2 日に開催された団塊塾では地域デビューを目指して 22 名が奮闘しました。

12 月 10 日の同窓会では、修了者のほぼ全員が何らかの地域デビューに成功しました。今回はこの様子を密着でご紹介します。

9 月 11 日 団塊塾とよなか 開講

【みんなで自己紹介 ボランティア 甲南女子大学准教授 佐瀬美恵子先生の講演】



↑まずは自己紹介から



↑佐瀬先生の講演

9 月 11 日(火)福祉会館で、団塊塾とよながスタートしました。受講者は 22 名。ボランティアや地域活動について学んでいきました。初日は、ジャンケンゲームやボランティアのキーワードを交えた自己紹介を行った後、佐瀬美恵子先生の講演を聴きました。

♡ボランティアのイメージ♡

～参加者のキーワードより～

「サポート」「社会奉仕」「支え合い」「ふれあい」「助け合い」「心のふるさと」「相手にわからないような親切」「人のため自分のため」「愛」「心」「太陽」など等…



9 月 18 日 団塊塾とよなか 2 日目

【もっと知ろう豊中の地域 & 地域デビューも健康から】

9 月 18 日(火)、団塊塾とよなか 2 日目は、市社協より豊中の地域活動の紹介と大阪健康福祉短期大学の准教授小椋芳子先生による高齢期の健康についてのお話がありました。



↑地域活動の紹介



↑小椋先生のお話

9月26日 団塊塾とよなか 3日目

【会社人から社会へ & 豊中の地域活動いろいろ】



↑ 講演「会社人から社会へ」



↑ パネルディスカッションの様子

9月26日(水)、団塊塾とよなか3日目は、企業市民活動研究所代表の松井淳太郎さんの講演と地域で活躍される各方面のパネラーによるパネルディスカッション「豊中の地域活動いろいろ」により、さらに具体的なボランティア活動のイメージを膨らませました。

終了後、交流会でもパネラーを交えて参加者が交流を行い楽しいひと時を過ごしました。

◎ 講義を聞いての感想

- ・ボランティアや自分にとっての生きがい大切なものについて考えさせられました。
- ・リタイア後の生き方・過ごし方を見直すよい機会となり、先生からの豊富な情報や事例紹介の講義は参考に役立った。
- ・心の持ち方、気持ちの持ち方が良く学べました。
- ・老後にいろいろ大切なものがあることを自覚。
- ・自分の現実の姿を再認識できた。

9月16日 ~30日 地域実習プログラム

フィールドワークとして様々なボランティア活動を体験していただきました。実際の活動を通じて地域デビューへの第一歩となりました。



↑ 豊中アッシーでの実習の一場面

講座を終えて...



↑ 同窓会 みんなでばんざ〜い！

10月2日(火)に講座を終えて12月10日(月)に同窓会を行いました。男性は定年後の生活リズムを整えながら少しずつ活動を広げている様子がうかがえました。女性は果敢にグループでさまざまなボランティアグループに見学に行き活動をスタートさせていました。

1月には、「団塊塾クッキング編」を行います。2月には、ボランティアフェスティバルにも参加します。新しい仲間を迎え活動を広げる団塊塾に大いに期待が広がります。

募金のお礼



<能登半島地震 支援募金>

能登半島地震災害募金における義援金として、募金箱を3月26日～4月20日の間、福祉会館・ボランティア活動推進センター「ぷらっと」・福祉の店「なかま」に設置しました。たくさんの皆様のご協力で、69,718円集まり、日本赤十字社大阪府支部豊中市地区を通じ被災者への救援金として使われます。また、この内の35,537円は『ちょボラサロン「えがお」』のメンバーの方々が行った街頭募金によるものです。

<新潟県中越沖地震 支援募金>

新潟県中越沖地震における義援金として、募金箱を7月18日～8月20日の間、福祉会館・ボランティア活動推進センター「ぷらっと」・福祉の店「なかま」に設置しました。たくさんの皆様のご協力で、264,972円(内55,308円は街頭募金による)集まり、被災地(新潟県・長野県)の県社協へ送金し、震災のボランティア活動への支援金として使われました。

みなさまの温かいご支援・ご協力どうもありがとうございました。

☆定年後のボランティア相談会☆

定年後にボランティア活動をはじめたい方や関心のある方の相談会を開催しています。お気軽にご相談下さい！

- ❖日 時 : 毎月第1金曜日(祝日除く)
13:30～15:30
- ❖場 所 : ボランティア活動推進
センター「ぷらっと」
- ❖相談員 : 企業・団体ボランティアネットワークとよなか役員
- ❖対 象 : おおむね50歳以上のボランティアに関心のある方
- ❖電 話 : 06-6848-1000

今後の予定

〔平成20年〕

★登録ボランティア新年の集い
1月25日(金)

★第15回ボランティアフェスティバル
2月10日(日)、会場は市民会館

★ボランティアはじめま専科
3月20日(木・祝): 青少年ボランティアグループ「つぼみ」

～お詫び～

ボランティアセンターだより第46号は10月発行予定でしたが、20周年特大号ということで発行が遅くなってしまいました。お待たせして誠に申し訳ございませんでした。

編集後記



今年の夏は猛暑日が続き、大阪は全国でも一番暑い地域で、熱中症によってお年寄りの方が亡くなられたという事があったほど大変暑い夏になりました。世界陸上でもマラソンランナーなど、アスリートの方々にも影響があり、棄権される方が多くありましたが無事に終わり、ほんと安心しました。

(そよかぜ N. N)